

第2学年 英語科学習指導案

日 時 平成26年11月6日(木) 5校時

学 級 2年B組 男子15名 女子16名 合計31名

場 所 2年B組教室

授業者 教諭 河村 里美

1 単元名 My Project5 将来の夢を語ろう (開隆堂 SUNSHINE ENGLISH COURSE 2)

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、夢を語るために必要な既習表現(6課の to 不定詞、7課の動名詞、5課の接続詞 if、when など)を活用して、自分の夢について英語でスピーチ原稿を作り、発表することがねらいである。この課の学習を通して自分のやりたいことを見つめ、それに真摯に努力することに価値を見出させたい。

学習指導要領には、第2学年における言語活動の目標を、“第1学年の学習を基礎として、言語の使用場面や言語の働きを更に広げた言語活動を行わせること。その際、第1学年における学習内容を繰り返して指導し定着を図るとともに、事実関係を伝えたり、物事について判断したりした内容などの中からコミュニケーションを図れるような話題を取り上げること。”としている。そこで、本単元では、事実関係を伝えることを重点とし、自分の考えが聞き手に正しく伝わるように文章構成に注意して文章を書いたり、自分の考えが他者に伝わるように適切な音声や強弱を用いてスピーチをしたりする力の向上を目指したい。

(2) 生徒観

男女の仲が良く、ペア活動もスムーズに行うことができるクラスである。英語学習に対しては、文法事項や語彙の多さに苦手意識を持っている生徒も見受けられるが、コミュニケーション活動には大変積極的に取り組んでいる。パフォーマンステストでも、さらに良い評価を目指そうと努力する生徒たちである。今年度のNRTの結果では、四領域とも全国平均を下回っている。特に、「書くこと」が低く、「適切な表現を用いて書く」という内容が落ち込んでいる。また、考えや気持ちを正しく伝えたりまとまりのある英語を聞いたり読んだりすることも苦手としていることが分かった。

本単元のようなスピーチは、1年生の時に「自己紹介」で行って以来実施していない。パフォーマンステストの様子を見ると、出来上がった原稿を暗記することはできるが、聞き手に分かりやすく話そうという意識が低い。英作文では、話したい日本語をその言葉どおり英語にしまい、既習事項を生かして思いを伝えるという力が不足している。

重要語句の単語テストやパフォーマンステストの実施を通して、基本的な単語を書く力や、英文を暗記して発表する力は向上しつつある。本単元では、自分の考えが伝わるようなスピーチとはどのようなものなのかを考えさせ、練習に取り組ませたい。また、少しでも自分の考えを英語で表現できるようにするために、この単元に向けて計画的に英文を書く練習を行わせたい。

(3) 指導観

本課では、プロ・ゴルファーの石川遼選手が、小学6年生のときに書いた作文をもとにして作られたスピーチ原稿で、「はじめに」「展開」「結び」の構成を学ぶ。次に、自分のスピーチ原稿のマッピングを行い、原稿を完成し、グループの中で発表するという指導過程である。本単元の学習を通して、文の構成を理解し、まとまった英文を書けるようにしたい。またこの単元に向けて、日々の授業に於いては、「My Project」との関連事項をチェックし、文構造の確実な定着を図る指導を積み上げていきたい。特にスピーチ原稿を無理なく書けるようにするために、ライティングの活動を充実させたい。その手立てとして、新しい言語材料使って1文書くだけでなく、後に1文付け足すようにして文脈を意識させたい。帯活動では、スピーチ原稿を

書く際、ヒントになるような英文を読ませることで、書く・話すに繋げたい。音読では、発音、イントネーションだけでなく、まとまりや強弱を意識させながら音読練習を行わせたいと考えている。

3 単元の目標と言語活動について

(1) 単元の目標

- ① 自分の夢について、聞き手に分かりやすく発表する。
- ② 聞き手を意識し、様々な工夫をしてスピーチを行う。
- ③ opening、body、ending の3つの流れを正しく理解する。

(2) 本校英語科における言語活動のとらえ

今年度の教科研究主題は、読む力・書く力が低いという昨年度の生徒の実態をもとに、教科研究主題を、「4技能を高める効果的な言語活動の実践～「読む」・「書く」力を高める指導を通して～」とした。

本校の英語科として、この教科研究主題に迫るために、言語活動のとらえを、「既習事項を活用して、相手に自分のことや考えを伝えたり、相手の意向を確認したりする活動」ととらえ、重点的に指導する内容に位置付けている。本単元では、話す活動に繋げるために、土台作りとして書く活動を位置づける。マッピングを取り入れることで、自分が話したいことを整理して書き上げる力を高めたい。

(3) 本校における英語科における言語活動の工夫・充実について

- ①自分の考えを持ち、それを分かりやすく伝える活動に、継続して取り組むこと。
- ②既習事項を活用して表現することにより、表現力の向上と基礎力の定着を図ること。

(4) 本単元における言語活動の工夫・充実の重点について

①マッピング

マッピングを行うことで、最初の構想をきちんと持たせ、まとまった英文を書くことにつなげていく。

②ペア活動とグループ活動

ペアでお互いが描いたマッピングにコメントを与える。それを参考にして、自分のマッピングを仕上げる。原稿の仕上げやスピーチの練習の際にも、ペアでアドバイスをし合うことで、より良いものを追求していく姿勢を持たせる。

4 単元の評価基準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語の表現の能力	ウ 外国語の理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
①聞き手を意識し、様々な工夫をしてスピーチを行っている。	①自分の夢について、聞き手に分かりやすく発表することができる。	/	① opening、body、ending の3つの流れを正しく理解している。

5 単元の指導計画（全5時間）

	学習目標	評価基準	評価方法	用いる言語活動
1	・スピーチ原稿の作り方が分かる。	・スピーチ原稿の内容を opening、body、ending に分けることができる。 【エー①】	・後日ペーパーテスト	/
2	・自分のスピーチ原稿をマッピングを使って構想できる。	・マッピングを使って、スピーチ原稿の構想を練ることができる。	・記述の点検 ・観察	・マッピングを使った原稿構成

				・互いのマッピング に対してアドバイ スを行うペア活動
3	・スピーチ原稿を完成する。	・構想をもとに、相手に 伝わるような50語程度 のスピーチを書くこと ができる。	・記述の点検	・ワークシートへの 記入
4 本時	・相手により伝わりやすいス ピーチを目指して練習する ことができる。	・ペアでのアドバイスを もとに、より相手に伝 わりやすいスピーチが できる。	・観察 ・記述の点検	・ペアでの活動 ・ワークシートへの 記入
5	・自分の夢を聞き手に分かり やすく語る事ができる。	・適切なスピードや強弱 で、相手に分かりやす くスピーチできる。 【アー①】【イー①】	・スピーチテスト	・スピーチ

6 本時の指導

(1) 目標

- ① 相手に伝わりやすいスピード・強弱を用いてスピーチする。＜外国語の表現の能力＞
- ② スピーチをよりよくしようと練習に取り組む。

＜コミュニケーションへの関心・意欲・態度＞

(2) 本時の評価基準

項目	評価基準
①外国語の表現の能力	相手に伝わりやすいスピード・強弱を用いてスピーチできる。【形成的評価】
②コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	スピーチをよりよくしようと時間いっぱい練習に取り組んでいる。

(3) 本時の構想

- ・本時は、導入でモデルとなるスピーチを提示し、どんな点に気を付けてスピーチすればよいのかを生徒一人一人に考えさせる。特に適切なスピードと強弱については全員が身に付けてほしい内容であることを伝え、練習に取り組ませる。
- ・「学び合いタイム」では、ペアでお互いに練習の成果を発表しあう。その際には、聞き手は、良い点や課題点をメモを取りながら聞かせる。その後どのように工夫して表現すればよいのかペアで話し合い、個人練習に戻る。最後にペアで評価をし合う。
- ・振り返りの時間では、本時の課題に対しての自己評価だけでなく、仲間の発表の良さについて触れ、更に良い発表となるよう気づきを全体で共有する時間として設けたい。
- ・次時の発表に向け、評価基準を明確にし、しっかりと練習することで、自信を持って発表できるようにさせたい。また、仲間の発表からその良さを発見し、切磋琢磨しあいながら高みを目指す雰囲気を作り出したい。

(4) 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点	○評価（方法・基準・観点） ・留意点
導入 (8)	1 英語で挨拶をする 2 既習事項を用いてペアワークを行う。 3 本時の学習課題を提示する。 ①スピーチのモデルを見る。 ②課題を把握する。	1 明るい雰囲気です授業に入れるようにする。 2 集中して話させる。 3 スピーチのモデルを見せ、ゴールをイメージさせる。 ・良さをを見つけるように、事前にアドバイスを与える	
スピーチの内容が伝わるように話すことができる。			
展開 (34)	4 スピーチの際の注意点を考える。 5 スピーチ練習を行う。 6 ペア学習を行う。 <u>学び合いタイム1</u> ①スピーチをする。 ②アドバイスをもらい、更に練習する。 ③違うペアで発表しあい、スピーチの内容が伝わったか確認する。 ③初めのペアで、再度スピーチをし他己評価を行う。 7 発表を行う。 <u>学び合いタイム2</u> 数名発表する。	4 今までの学習を思い出させながら意見を出させる。特に今回は、スピードと強弱に注意することを伝える。 5 時間を設定して活動させる。原稿に、どこをどんな風に工夫したのか書き込みをさせながら練習させる。 6 ①ペアの聞き手の生徒には、良い点・課題点をメモしながら聞くよう伝えておく。 ②工夫点が良く分かるように時間いっぱい練習させる。 7 仲間の発表から、自分のスピーチに生かせる工夫を学び取る。	5～6 ○[表現] (2) —①【観察】 B：相手に伝わりやすいスピード・強弱を用いてスピーチできる。 ○[関心・意欲・態度] (2) —②【観察】【記述】 B：スピーチをよりよくしようと時間いっぱい練習に取り組んでいる。 <コミュニケーションスキル> 【聞く】 前に出た人やペア活動の相手の目を見る(アイコンタクト)、うなずきながら聞く等、相手に反応しながら聞く。 【発表する】 姿勢を正し、表現力豊かに発表する。
終末 (8)	8 本時の振り返りをする。 9 次時の予告 10 挨拶	8 学習シートに本時の評価と感想を記入させ、感想を発表させる。 9 ①学習の見通しを持たせる。 ②宿題を確認する。 10 しっかりとした姿勢で挨拶をさせる。	

